

原子力施設の事象の国際評価尺度（INES）

INCIDENT No.		FOLLOW UP No.			NUPEC No.			ERF No.			930					
事象タイトル		減速材になる可能性がある物質の燃料ルートへの挿入								事象発生日						
										2009/06/29						
評価結果				レベル							事象のタイプ					
暫定 <input checked="" type="checkbox"/>	評価日 2009/07/17	尺度外	尺度未満/ レベル0	インシデント			事故				発電所 <input checked="" type="checkbox"/>	研究炉 <input type="checkbox"/>				
最終 <input type="checkbox"/>				1	2	3	4	5	6	7	廃棄物処理 <input type="checkbox"/>	放射線源 <input type="checkbox"/>				
国名 UNITED KINGDOM		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	照射/加速器施設 <input type="checkbox"/>	輸送 <input type="checkbox"/>				
ロケーション		施設名 DUNGENESS B-1					燃料製造施設 <input type="checkbox"/>		燃料再処理施設 <input type="checkbox"/>		研究施設 <input type="checkbox"/>		採鉱/精錬 <input type="checkbox"/>			
							濃縮施設 <input type="checkbox"/>		放射性同位体処理/取扱い施設 <input type="checkbox"/>						その他 <input type="checkbox"/>	

	YES	NO
人と環境への影響		
法定限度を上回る放出か？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
公衆の過大被ばくか？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
従業員の過大被ばくか？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
施設における放射線バリアと管理への影響		
施設内の汚染の拡大か？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
施設内の放射線バリアの損傷（燃料損傷を含む）か？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
深層防護の劣化	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
その他の情報		
負傷/死傷者の発生か？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
問題の継続か？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
プレス発表がされたか？	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

事象の概要

新しい燃料ストリンガー（横梁）に燃料プラグユニットをラッチさせる（掛け金をかける）ために、燃料プラグユニットを降下させている際、正しくラッチした結合状態とならず、しかもその上、異物がスプリングコレットアセンブリと中性子散乱プラグ間に挟まっていることが判明した。その異物はゴム製のシート片のようであり、その発生源は、以前、セルのメンテナンス作業中に、メンテナンスチューブをカバーするために用いられていた3つのカバーの内の1つの可能性が高い。正しくラッチしなかったこの不具合は、燃料集合体を吊り上げる際、手順で定められたチェックで確認された。燃料取扱い作業は中断されたが、燃料集合体は、約3 mの高さに吊られたままとっている。

復旧プロセスの一部として、燃料集合体のラッチが外れ、高い位置から落下する事象の可能性を最小にするため、ポリウレタンの発泡材を宙吊りとなっている燃料ストリンガーの下に挿入した。ポリウレタンの発泡材は、燃料ストリンガーと接触した形で挿入されていない。ポリウレタンの発泡材を分析した結果、減速材としての効果がある材質であり、それ故、適用されている臨界安全解析書に影響を与える可能性があることが示された。

現在、機械的拘束具を利用して燃料ストリンガーの落下を防止している。

本事象は、臨界事象の可能性を持つ深層防護の劣化として、レベル2に暫定評価している。本評価は、引き続き行う調査によってレビューされるであろう。